

進学経験談

谢昭

谢昭と申します。自分の進学の経験を皆さんと共有できることを嬉しく思います。私と同じく理系大学院を志望する後輩達に、自分なりにアドバイスできればうれしいです。

私が出願したのは東京工業大学と早稲田大学の材料専攻です。多くの理系大学院の入試と同様、2校の筆記試験の成績で最終の合否が大きく左右されます。東京工業大学は筆記試験に合格した者しか面接に進むことができません。個人的に、面接の難易度は筆記試験ほど高くありません。

大学の選定では、各大学の公式HPを参考にすると良いでしょう。公式HPに志望教授の研究室のリンクが載っていますので、研究室のページにアクセスして志望教授の研究内容や研究室のメンバーなどの情報を確認して下さい。留学生を取らない教授もいますので、研究室の現在のメンバーに留学生がいないところに出願希望を出しても、不合格になる可能性が大きいでしょう。自分の研究の方向性と努力の目標をはっきりさせてから、しっかりと準備に取り掛かりましょう。

筆記試験の準備段階では過去問題をこなすことが一番重要です。なぜなら、毎年の入学試験の問題を見ると過去問題に類似する問題が必ず存在するからです。日本の入学試験の問題、試験範囲は中国国内のものと違います。中国で使われている教材と練習問題は参考、もしくは学習の進捗度を把握するときを使うと良いでしょう。理系大学院の筆記試験で良い成績を取りたいなら過去問題をこなすのが必須です。特に早稲田大学の筆記試験は、過去問題に似ている問題の割合が4割も占めています。東京工業大学の過去問題をこなすと、出題傾向が見えてきます。過去問題を通して、出題範囲と難易度を把握し、自分の弱点となる部分をはっきりさせ、準備に取り掛かりましょう。基礎がそれほど良くない学生は、まず中国国内の教材で学習と復習をしましょう。基礎をかためたら、日本語の教材を使いましょう。専門用語の表現の仕方では、日本語と中国語の違いが多く存在します。日本語教材を使う目的は問題をうまく理解し、解くスピードを上げるためです。材料学分野の問題は論述型のものが多く、日本語でうまく答えられないという局面を避けたいので日本語教材で学習・復習することは必須となります。

次に、語学力の試験についてです。東京工業大学の出願条件ではTOEFL成績の提出が必須ではないため、英語に自信がないなら、TOEICの受験をおすすめします。点数の配分に関しては、東京工業大学は英語が200点、専門知識が400点という配分でした。英語の成績が良ければ専門知識部分の小さいミスをカバーできるでしょう。TOEICの成績なら700点以上をとれば良いほうです。早稲田大学の基幹理工研究科に出願するなら、TOEICの成績を550点以上とれば大丈夫でしょう。英語の成績が専門知識の成績にさほど影響を与えない印象でした。私が出願した2校は日本語レベルを表す試験の成績を求めないものの、筆記試験の解答言語と面接に使うのが日本語ですから、N2レベル以上の日本語能力は望ましいです。日本語と英語力に関して言えるのは、教授とうまくコミュニケーションが取れ、継続的に学習できるレベルに達していることを証明できれば問題ありません。

面接の部分では、自己紹介の時間はそれほど長く与えられていません。最も基本的な質問は志望動機です。しっかりと答えを事前に考えて準備しておいたほうが無難です。答えのポイントは入学したい熱意、例えば自分の研究が教授の研究テーマと合致している点や、志望教授の研究領域における実績に懂れているなどを伝えましょう。自分の研究したい内容、学部の卒業論文の要約は、日本語で流暢に表現できるようにして下さい。研究の方向性をはっきりさせることはなによりも重要です。残りは入学時期、学費の支払い能力、アルバイトの有無などの質問です。一つ一つ丁寧に答えましょう。

最後に、諦めずに夢を追い続けていく後輩達にエールを送りたいです。日本に留学し、目標を明確にして実行できるのであれば、自分の未来を変えることは不可能ではありません。亜細亜友之会外語学院の事務の先生方々の寛容と関心、そして教務の先生方々のご指導に感謝します。先生方の苦勞がなければ今の自分はありません。皆さんも理想の大学院に合格できるよう祈ります。